

## [巻頭言]

## 巻 頭 言

新潟医療福祉学会 理事長 豊 田 保

新潟医療福祉学会の特徴の一つは、保健・医療・福祉・スポーツに関する研究者と保健・医療・福祉・スポーツに関する職場で専門職として働いている職員の方々によって構成されていることである。

保健・医療・福祉・スポーツに関する学会に限らず、学会を名乗っている組織の一般的な形態は、ある特定の一つの分野に関する研究者とその分野に関する職場で専門職として働いている職員の方々によって構成されているのが通常の形態である。

例えば、私が新潟医療福祉学会以外に所属している日本社会福祉学会を例に挙げると、日本社会福祉学会は、社会福祉に関する研究者と社会福祉の職場で専門職として働いている職員の方々によって構成され、社会福祉に関する理論、歴史、法律、制度、施策、実践方法などについての議論を展開していることになる。

このように学会のあり方を考えてみると、新潟医療福祉学会はある特定の分野の研究者とその分野で専門職として働いているの方々による、つまり、単一の専門的な分野を基盤にして成り立っている学会ではなく、分野横断的な研究者と専門職の方々によって構成されている学会であることを大きな特徴としている学会であるといえる。

さて、私が専門としている社会福祉分野における要援護高齢者や障害者などに対する援助のあり方についての近年の考え方の特徴の一つは、保健・医療・福祉などのサービスを統一してクライアントに提供する実践を目指す方向が主流になってきていることである。また、こうした動向は、保健・医療サイドからみても共通した傾向にあるのではないかと主張できると思われる。

このような動向から考えると、新潟医療福祉学会は、その構成員の現状からみて、保健・医療・福祉・スポーツのサービスを統一してクライアントに提供する方法を構築していくための方法などについて積極的な社会的貢献が可能な立場にある学会であると主張できることになる。つまり、保健・医療・福祉・スポーツの各学会構成員の専門分野を超えて意見交換などを行うことが可能である条件を最初から組織的に備えていることになるのである。

新潟医療福祉学会の会員の方々が、一つの専門分野の研究者として、あるいは、特定の分野の専門職として、それぞれの分野を土台にした学会で活躍することは当然のこととして重要な意義を有するものであるが、同時に、保健・医療・福祉・スポーツに関する分野横断の学会であることを特徴とする新潟医療福祉学会において、要援護高齢者や障害者のQOLの向上のための方策について共同の努力を試みることは、これまた非常に有意義な意味を持つ作業であると考えられる。

新潟医療福祉学会の会員の皆さんに、以上のような新潟医療福祉学会の特徴とそこに所属していることの意義を踏まえて、和文誌に論文を投稿して頂くことをはじめ、積極的に本誌を発展させるためのご尽力を頂きたいと願っている。